行事報告

排泄シンポジウム～司会～

山本　智章

去る 2016 年 10 月 1 日（土）はがき通信・兵庫頸髄損傷者連絡会、合同シンポジウム「四肢マヒ者の排泄」が姫路市にあるハーベスト医療福祉専門学校にて開催されました。この日は台風 17 号の影響で天候が不安定の中、たくさんの方々にご参加いただき意見交換が行われました。兵庫の実行委員メンバーである私が司会をさせていただきましたので、報告いたします。

はがき通信懇親会 in 姫路には 2 泊 3 日の予定で参加していました。介助者は、学生ボランティアさんです。いつも学生さんにお手伝いしていただき、宿泊を伴うイベントへ積極的に参加することができるようになりました。

今までに何度か司会の経験はありますが、未だに人前に立つことに慣れていません。もちろん、喋ることも。本当は裏方にいる方が私に合っているのかもしません。司会を依頼されたのが、当日の約 20 日前でした。実行委員として、できることはしようと決断しました。今回もシナリオ通りに進行すればいいだろうと思っていましたが、肝心のシナリオが完成していませんでした。唯一の大事なアイテムがないのは不安しかありません。しかし、前日に行われた懇親会や当日の打ち合わせ等で全体の流れを把握することができました。

いざ、シンポジウム当日です。事前の昼食ですが、緊張であまり食べられませんでした。会場へ続々と入ってくる人たちを見て余計に落ち着きません。でも焦らず冷静に“やるだけやろう”と気持ちを切り替えて臨みました。やはり人前に立つと、言葉は噛むし、詰まるしで最初からあたふたするばかりです。横にいる介助者は、そんな私に気を遣って、時間が分かるようにと時計のアプリをスマホにインストールして演台に置いてくれました。こういう気遣いはとても嬉しいです。シンポジストとの打ち合わせにも付き合ってくれ、たくさんのメモも取ってくれました。時間を見ながら順調に司会を行うことができました。それでも困ったことに予定していた時間より進行が早くなり、パネルディスカッションの時間が長くなってしまったのです。ここでは、司会がコーディネータをすることになっていました。質問を会場へ求めるばかり、どのように締めくくりパネルディスカッションを終わればいいのか戸惑いました。その時、会場から一つの質問があり、それまでの雰囲気が一変しました。それは、会場内でストーマ（人工の排泄口）をされている方へ意見を求める内容でした。4～5 名の方が名乗りをあげて、発言していただいたお陰で当事者から多くの意見が飛び交う中身の濃いディスカッションの場となりました。“助け舟”を出してくれたこの質問者の方にとても感謝しています。

会場内の様子

今回、司会という立場で参加させていただいて思い出に残る貴重な経験ができました。シンポジウムを通して、たくさんの方々が排泄について関心がとても高いということが分かりました。これからも頸損者にとって排泄は“切っても切れない”重要な課題になると思います。また排泄の方法は人によって様々であり、より良い日常生活を送る為、その人にあった方法を探していくのだろうと考えさせられる良い機会になりました。

最後に皆様のご協力をいただき、無事にシンポジウムを開催できました。今回、参加してくれた学生ボランティアさんにも感謝しています。

この 3 日間、お疲れ様でした。本当にありがとうございました。